



緑小だより

板橋区立緑小学校
特別号 (No. 575)
令和 7 年 11 月 4 日

令和 7 年度「各学力調査」の結果報告

板橋区の小学校では、子どもたちの学習状況を把握し、一人ひとりの学力向上をめざして以下の調査を行っています。

○「全国学力・学習状況調査」【文部科学省】

この調査は、全国の小学校 6 年生を対象にしたもので、4 月に実施しました。内容は国語、算数、理科、児童への質問紙からなります。

○「リーディングスキルテスト (RST)」【板橋区】

この調査は、基礎読解力の定着状況を把握するための調査で、区内小学校 6 年生と区立中学校全学年生徒に実施するものです。6 月にパソコンを使って実施しました。

〈本校での各学力調査の達成内容と課題及び改善策〉

全国学力・学習状況調査 (6 年) より

国語 (平均正答率)

分類		区分	緑小	東京都	全国
全体			72.0	70.0	66.8
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方	75.0	77.9	76.9
		情報の扱い方	63.6	66.9	63.1
		我が国の言語文化に関する事項	88.6	83.8	81.2
	思考力、判断力、 表現力等	話すこと・聞くこと	72.0	69.9	66.3
		書くこと	80.3	72.4	69.5
		読むこと	63.6	61.0	57.5

国語全体については、東京都の平均正答率より 2.0 ポイント、全国の平均正答率より 5.2 ポイント高くなっています。各区分別に見ると、全て東京都、全国の平均正答率を上回っているものの、「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」の正答率が低く、指導の工夫が求められます。以下は問題別に見た結果です。

正答率の 高かった問題	・図表を用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。93.2% ・時間の経過や順序を考え、言葉の違いや内容の大体を捉える。88.6%
課題の残る問題	・目的に応じて、文章と図表を結び付け、必要な情報を見付ける。52.3% この問題は、無回答率も 15.9% と高かった。
改善策	・算数や社会、理科等において、図表やグラフから分かったことや考えられることをキーワードや文章で表現する活動を取り入れる。また、複数の資料から必要な情報を選ぶよう、資料の読み取りや選択できる場面を増やす。

算数 (平均正答率)

分類		区分	緑小	東京都	全国
全体			69.0	64.0	58.0
学習指導要領の領域	A	数と計算	71.6	68.3	62.3
	B	図形	69.9	61.2	56.2
	C	測定	71.6	60.5	54.8
	D	変化と関係	69.7	64.9	57.5
	E	データの活用	70.9	67.6	62.6

算数全体については、東京都の平均正答率より5ポイント、全国の平均正答率より11ポイント高くなっています。各区分別に見ると、全て東京都、全国の平均正答率を上回っていて、区分の正答率の差も小さいです。以下は問題別に見た結果です。

正答率の高かった問題	・小数の加法の方法について、もとにする数を用いて計算することができる。90.9% ・伴って変わる二つの数量関係に着目し、必要な数量を見出すことができる。90.9%
課題の残る問題	・目的に応じて適切なグラフを選択し、理由を言葉や数を用いて記述する 34.1% ・分数の加法について、共通する単位分数の幾つ分かを言葉や数を用いて記述する。36.4% この問題は、無回答率も13.6%と高かった。
改善策	・設問の目的に応じて必要な情報やグラフを選択できるよう、まず選択の場面で確認する時間を確保する。そしてなぜそれを選択したのか説明したり確認したりすることも丁寧に指導する。 ・表やグラフから分かることを共有する場面や、「AだからB」のように、理由と結論を明確にして表現し、友達と交流して多様な考え方や表現に触れさせる場を増やす。そして自分の言葉で表現できるよう、記述の時間も確保する。

理科（平均正答率）

分類		区分	緑小	東京都	全国
全体			63.0	60.0	57.1
学習指導要領の内容	A区分	エネルギー	57.4	49.9	46.7
		粒子	57.2	53.7	51.4
	B区分	生命	54.5	54.1	52.0
		地球	69.7	69.1	66.7

理科全体については、東京都の平均正答率より3.0ポイント、全国の平均正答率より5.9ポイント高くなっています。各区分別に見ると、全て東京都、全国の平均正答率を上回っているものの、「生命」の正答率が一番低く、指導の工夫が求められます。以下は問題別に見た結果です。

正答率の高かった問題	・実験の方法を発想し、表現する。81.8% ・乾電池のつなぎ方を理解している。81.8%
課題の残る問題	・金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物を理解している。13.6% ・発芽の条件について、差異点や共通点を基に新たな問題を見だし表現する。29.5% この問題は、無回答率も18.2%と高かった。
改善策	・観察や実験の結果を根拠として、自らの考えを論理的に筋道立てて記述できるよう、考察の場面でひな型やキーワードを用いたり、考察の書き方の例を示したりして、何をどのように書いたらよいか繰り返し行う。ペアやグループ等の少人数での対話を取り入れていく。 ・既習の学習を取り入れながら、新しい知識と比較して整理できるように指導を工夫する。

意識調査より（一部）

東京都・全国と比べて良い傾向にあったもの

設問1 朝食を毎日食べていますか。

	緑小	東京都	全国
している	93.2	84.3	83.3
どちらかといえばしている	4.5	9.8	10.4
あまりしていない	2.3	4.4	4.8
全くしていない	0	1.5	1.6

設問12 学校に行くのは楽しいですか。

	緑小	東京都	全国
当てはまる	63.6	50.6	49.9
どちらかといえば当てはまる	25.0	35.5	36.6
どちらかといえば当てはまらない	4.5	9.1	9.1
当てはまらない	6.8	4.7	4.3

設問 29 PC・タブレット等の ICT 機器を使って発表のスライドを作成することができますか。

	緑小	東京都	全国
とてもそう思う	52.3	47.1	38.6
そう思う	34.1	35.6	38.1
あまりそう思わない	13.6	13.4	18.2
そう思わない	0	3.8	5.0

課題と捉えられるもの

設問 5 自分にはよいところがあると思いますか。

	緑小	東京都	全国
当てはまる	45.5	50.9	47.3
どちらかといえば当てはまる	29.5	36.3	39.6
どちらかといえば当てはまらない	9.1	8.7	9.1
当てはまらない	13.6	4.1	3.9

設問 9 いじめは、どんな理由があってもいけいことだと思いますか。

	緑小	東京都	全国
当てはまる	68.2	78.5	81.4
どちらかといえば当てはまる	25.0	17.9	15.8
どちらかといえば当てはまらない	4.5	2.6	2.1
当てはまらない	2.3	0.9	0.7

設問 43 道徳の授業では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。

	緑小	東京都	全国
当てはまる	52.3	47.1	47.3
どちらかといえば当てはまる	38.6	40.3	40.7
どちらかといえば当てはまらない	9.1	9.8	9.5
当てはまらない	0	2.6	2.3

設問 7 将来の夢や目標を持っていますか。

	緑小	東京都	全国
当てはまる	38.6	58.1	60.7
どちらかといえば当てはまる	31.8	23.5	22.4
どちらかといえば当てはまらない	18.2	11.3	10.3
当てはまらない	11.4	7.1	6.6

設問 30 5年生までの学習の中でPC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることはできていますか。

	緑小	東京都	全国
とてもそう思う	25.0	35.2	31.0
そう思う	63.6	46.7	50.3
あまりそう思わない	11.4	15.2	15.9
そう思わない	0	2.8	2.6

本校の児童の傾向として、心身共に元気に登校できるよう、朝食を食べさせて送り出している等、家庭の協力が得られていることが分かります。学校に行くのは楽しいと感じている児童が多いのは、学校での学びの充実、自分の居場所があることにも関係していると考えられます。「安心・安全」と感じる居場所が複数あることは、幸せにつながります。児童にとっての学びがいのある学校、心の居場所となる学校づくりに努めていきます。また、タブレットを使って発表のスライドを作成する機会が複数あります。作成を重ねるごとに、友達のスライドの良さに触れ、自分の力を伸ばすことにつながっています。海外の小学校とのオンライン交流でも、スライドを使って繰り返し発表し合っています。海外の児童との交流を通して、刺激し合い、お互いを高め合っています。自信も付いてきています。さらに価値付けてまいります。さらに、道徳の授業では、話し合い活動を取り入れています。自分の考えを相手に伝える、友達の考えを認める、友達の考えからさらに自分の考えを広げ、深めることを通して、自他の良さに気づき、生活につなげています。他の教科の学習でも話し合いを通して学びを広げ、深めることを行っています。引き続き、対話を通して深い学びを充実させてまいります。

課題と感じられたことは、自分のよさや将来の希望についてです。児童一人ひとりによりよいところがあり、成長が感じられるよう学習計画を立てています。児童自身が自分のよさや成長を感じて、自己肯定感が高まるよう、教育活動の様々な場面で褒め、認めるようにしていきます。将来の夢や目標がもてるよう、学校での学習や生活において、常にめあてをもたせ、振り返りをして、次の取組につなげていることも大きく影響すると考えられます。どの学習でも、学ぶ意味や目的意識を感じて、積極的に参加できるよう、板橋区授業スタンダードに基づき、めあてと振り返りを充実させ、見通しのもてる授業展開や板書、掲示に努めます。また、いじめは絶対に許さない、見逃さない指導の充実を図っていきます。子どもたちが互いの人格を尊重し、思いやりの心をもってほかの人とかかわることができるようにするために、教職員一人ひとりが人権尊重の理念を十分に理解すると共に、人権教育を道徳はもとより各教科、総合的な学習の時間、特別活動等、学校の教育活動全体を通じて組織的・計画的に進めます。またタブレットを活用し、自分で学び方を選択できるよう、各教科を通して様々な学び方を指導していきます。様々な学び方を経験する中で、「この活動にはこの学び方をする」と選択する力を付けていけるようにします。

RST結果（6年）より

1 RST調査の目的

- ・基礎的読解力の定着状況をRST（Reading Skill Test）によって把握し、各学校の読み解く力の向上に向けた取組を行うことにより、学力向上を図る。
- ・板橋区教育委員会と学校、国立情報学研究所が連携し、一人ひとりの基礎的読解力の変容を継続的に把握することにより、効果的な指導方法を探る。

2 調査内容

「読み解く力」を支える基礎的読解力の分類

【係り受け解析】

捉え	文の構造を正しく把握し、「誰が」「何を」「どうした」が分かる。
問題例	「天の川銀河の中心には、太陽の400万倍程度の質量をもつブラックホールがあると推定されている。『天の川の中心にあると推定されているのは（ ）である。』」 →ブラックホール

【照応解決】

捉え	「それ」「これ」などの指示詞が指し示すものや省略されている主語・目的語が分かる。
問題例	「火星には、生命が存在する可能性がある。かつて大量の水があった証拠が見つかり、現在も地下には水がある可能性がある。『かつて大量の水があった証拠が見つかり、現在も地下には水がある可能性がある。』」 →火星

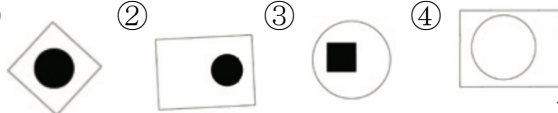
【同義文判定】

捉え	2つの文を比較し、それらが同義か否かを正しく認識する。
問題例	「義経は平家を追いつめ、ついに壇ノ浦で滅ぼした。『平家に追いつめられ、ついに壇ノ浦で滅ぼされた。』」 →同じである

【推論】

捉え	既存の知識と新しく得られた地域から、論理的に判断する。
問題例	「エベレストは世界で最も高い山である。『エルブレス山の高さはエベレスト以下である。』」 →正しい

【イメージ同定】

捉え	提示された文が、どのようなことを表しているかイメージする。
問題例	「次の文の内容を表す図として適当なものすべてを選びなさい。『四角形の中に黒で塗りつぶされた円がある。』」  →①、②

【具体例同定】

捉え	（辞書）辞書の定義を用いて新しい語彙とその用法を獲得できる。 （理数）理数的な定義を理解し、その用法を獲得できる。
問題例	「2で割り切れる数を偶数という。そうでない数を奇数という。『偶数を全て選びなさい。① 6 5 ② 8 ③ 0 ④ 1 1 0』」 →②、③、④

3 調査の結果と分析（RSTを受検した小学生のみ対象とした偏差値換算）

	係り受け解析	照応解決	同義文判定	推論	イメージ同定	具体例同定	具体例同定 (辞書)	具体例同定 (理数)
全体と比較した 能力値平均	0.13	0.04	0.1	−0.11	0.48	0.65	0.4	0.64

本校の結果を見ると、推論以外、全体と比較した能力値平均が高い傾向にあります。「推論」については、なぜなら、しかし、したがって、といった接続詞に注目させ、前後の文脈が原因・結果、対比、例示といったどのような関係にあるのかを意識させるようにします。これによって文章の裏にある非明示的な情報を推測する力を付けていきます。教科書等の文章や図表等から読み取ったことを基にして、分かったことや考えたことを相手に音声・文字言語で伝える力である「読み解く力」を育成するため、「教科書を用いて教科書で学ぶ」という教科書を活用した指導に努めます。

令和7年度「体力テスト」の結果報告

1 調査結果(都の学校票より)

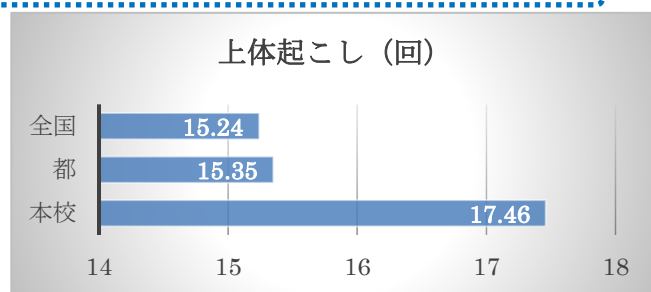
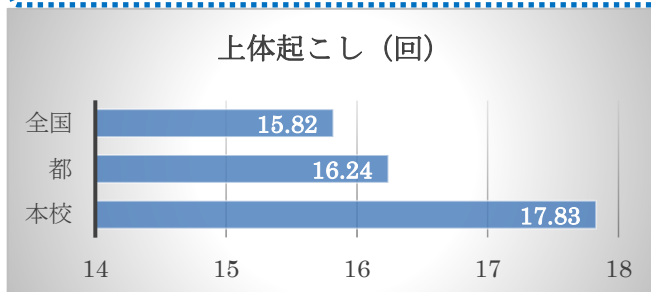
は、男女共通の傾向

学年	男子	女子																		
1年	反復横跳びが都平均より高くなっている。 成果 反復横跳び (回) <table><tr><td>全国</td><td>27.65</td></tr><tr><td>都</td><td>26.07</td></tr><tr><td>本校</td><td>26.29</td></tr></table> ▼合計得点が全国・都平均より低い 課題 合計得点 (点) <table><tr><td>全国</td><td>31.18</td></tr><tr><td>都</td><td>28.58</td></tr><tr><td>本校</td><td>27</td></tr></table> ▼特に 20mシャトルランが低い 本校 13.23 回、都 15.88 回、全国 18.97 回 → マラソン旬間を設け、走る習慣を付けたり、鬼遊びやなわとびなど、走る・止まる運動で楽しく持久力を上げる活動を取り入れる。	全国	27.65	都	26.07	本校	26.29	全国	31.18	都	28.58	本校	27	20mシャトルランが全国・都平均より高くなっている。 20mシャトルラン (回) <table><tr><td>全国</td><td>15.7</td></tr><tr><td>都</td><td>13.29</td></tr><tr><td>本校</td><td>16.4</td></tr></table> ▼合計得点が全国平均より低い ▼特に反復横跳びが低い 本校 24.72 回、都 25.02 回、全国 26.92 回 → 手拍子やメトロノーム、またはテンポのある音楽に合わせて動く運動や動きなどの一定リズムを意識した運動を取り入れる。	全国	15.7	都	13.29	本校	16.4
全国	27.65																			
都	26.07																			
本校	26.29																			
全国	31.18																			
都	28.58																			
本校	27																			
全国	15.7																			
都	13.29																			
本校	16.4																			
2年	合計得点が全国・都平均より高くなっている。 成果 合計得点 (点) <table><tr><td>全国</td><td>37.84</td></tr><tr><td>都</td><td>35.92</td></tr><tr><td>本校</td><td>38.06</td></tr></table> ▼長座体前屈が全国・都平均より低い 課題 長座体前屈 (cm) <table><tr><td>全国</td><td>28.14</td></tr><tr><td>都</td><td>27.55</td></tr><tr><td>本校</td><td>26.33</td></tr></table> ▼特に長座体前屈が低い → 前屈運動 (立位体前屈) や開脚ストレッチ (膝を伸ばすことを意識) など、準備運動にストレッチを取り入れる。	全国	37.84	都	35.92	本校	38.06	全国	28.14	都	27.55	本校	26.33	合計得点が全国・都平均より高くなっている。 合計得点 (点) <table><tr><td>全国</td><td>37.89</td></tr><tr><td>都</td><td>35.6</td></tr><tr><td>本校</td><td>39.25</td></tr></table> ▼握力が全国・都平均より低い ▼特に握力が低い → 固定遊具を使った様々な運動やタオル絞りなどの握る運動を取り入れる。	全国	37.89	都	35.6	本校	39.25
全国	37.84																			
都	35.92																			
本校	38.06																			
全国	28.14																			
都	27.55																			
本校	26.33																			
全国	37.89																			
都	35.6																			
本校	39.25																			

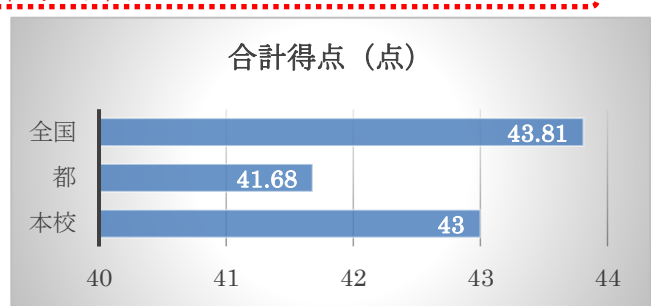
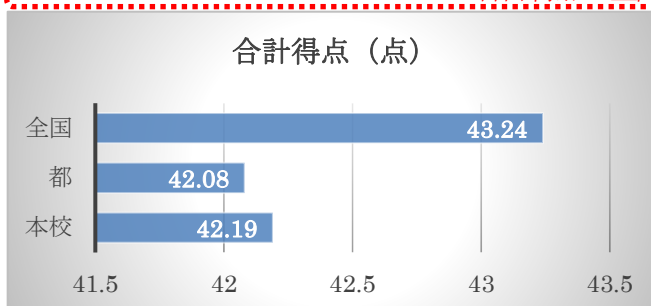
3
年

成果

合計得点が全国・都平均より高くなっている。



▼合計得点が全国平均より低い



課題

▼特に長座体前屈が低い

本校 26.67cm、都 29.79cm、全国 29.36cm
→前屈運動（立位体前屈）や開脚ストレッチ（膝を伸ばすことを意識）など、準備運動にストレッチを取り入れる。

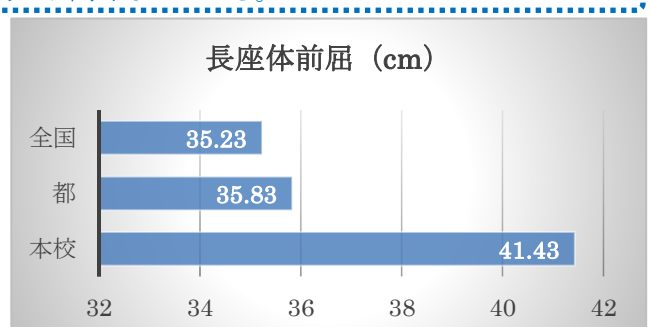
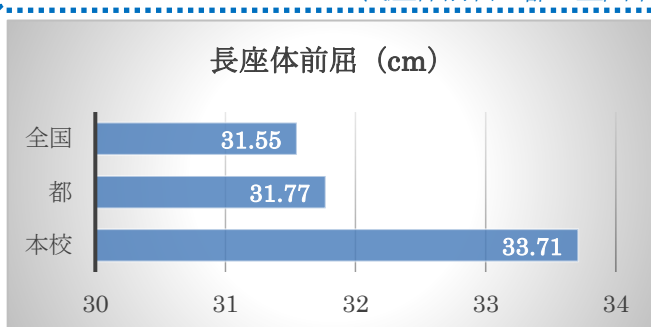
▼特に 20mシャトルランが低い

本校 20.23 回、都 23.14 回、全国 27.43 回
→マラソン旬間を設け、走る習慣を付けたり、鬼遊びやなわとびなど、走る・止まる運動で楽しく持久力を上げる活動を取り入れる。

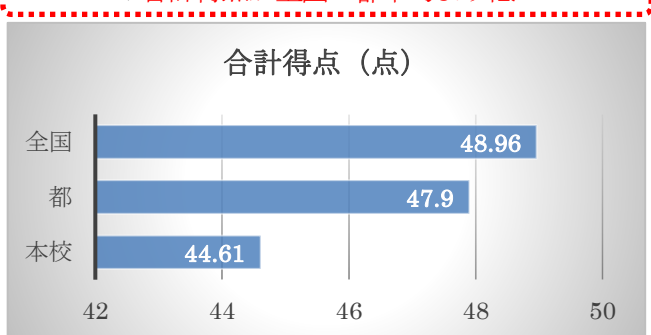
4
年

成果

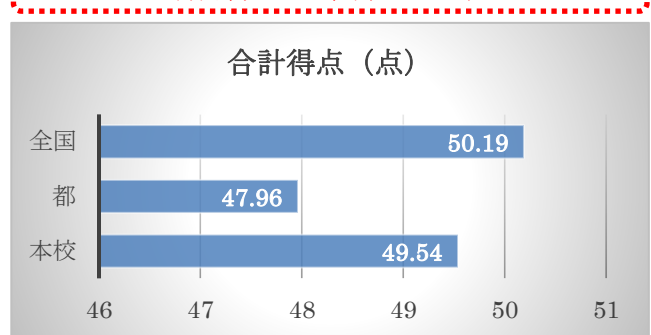
長座体前屈が都・全国平均より高くなっている。



▼合計得点が全国・都平均より低い



▼合計得点が全国平均より低い



課題

▼特に反復横跳びが低い

本校 32.9 回、都 37.3 回、全国 38.47 回
→手拍子やメトロノーム、またはテンポのある音楽に合わせて動く運動や動きなどの一定リズムを意識した運動を取り入れる。

▼特にボール投げが低い

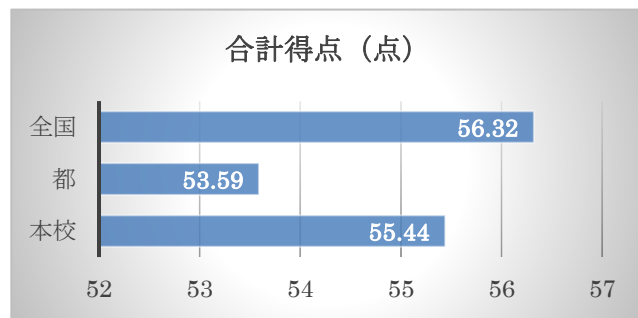
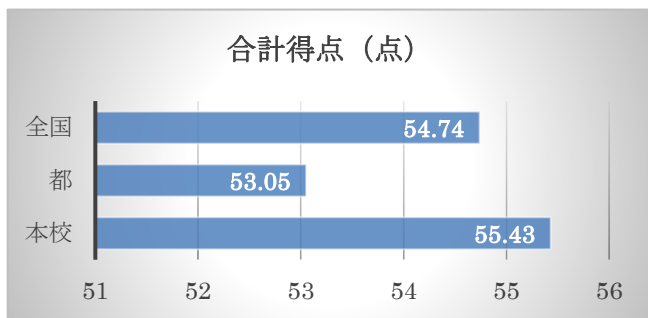
本校 9.93m、都 10.36m、全国 11.83m
→ボールを投げる場面を増やし、投げる手と反対の足を一步前に踏み出して投げるなど、体全体を使った大きなフォームで投げる運動を取り入れる。

5
年

合計得点が全国・都平均より高くなっている。

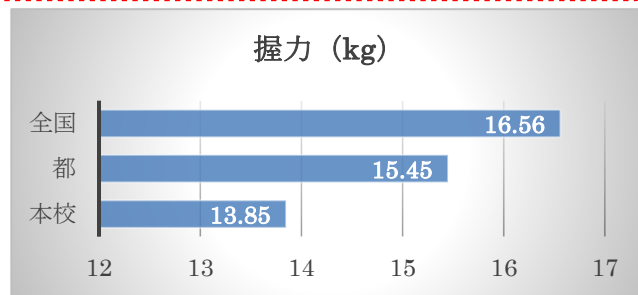
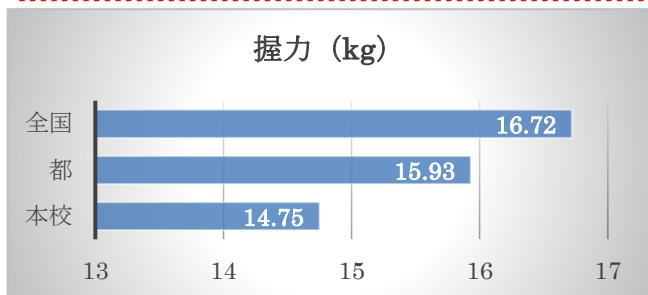
合計得点が都平均より高くなっている。

成果



▼特に握力が低い

課題



▼特に握力が低い

→固定遊具を使った様々な運動やタオル絞りなどの握る運動を取り入れる。

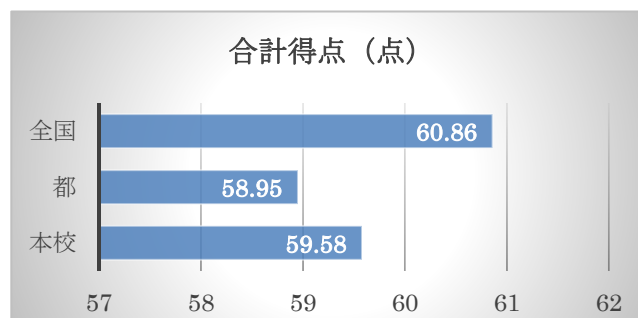
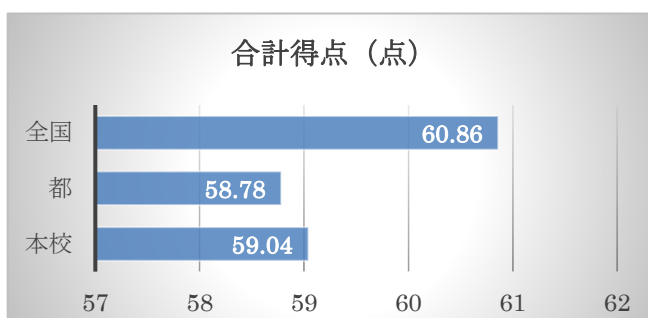
▼特に握力が低い

→固定遊具を使った様々な運動やタオル絞りなどの握る運動を取り入れる。

6
年

合計得点が都平均より高くなっている。

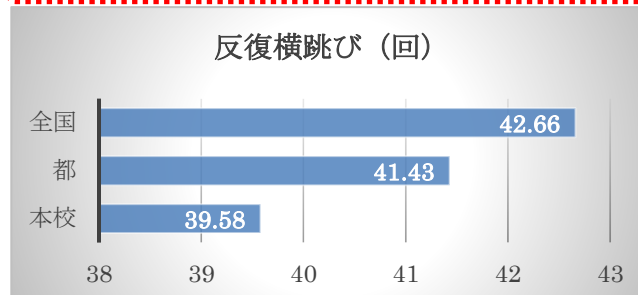
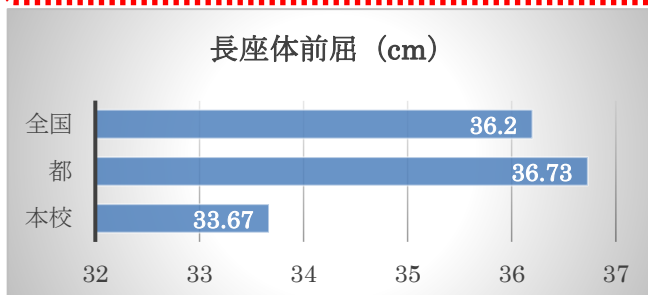
成果



▼特に長座体前屈が低い

▼特に反復横跳びが低い

課題



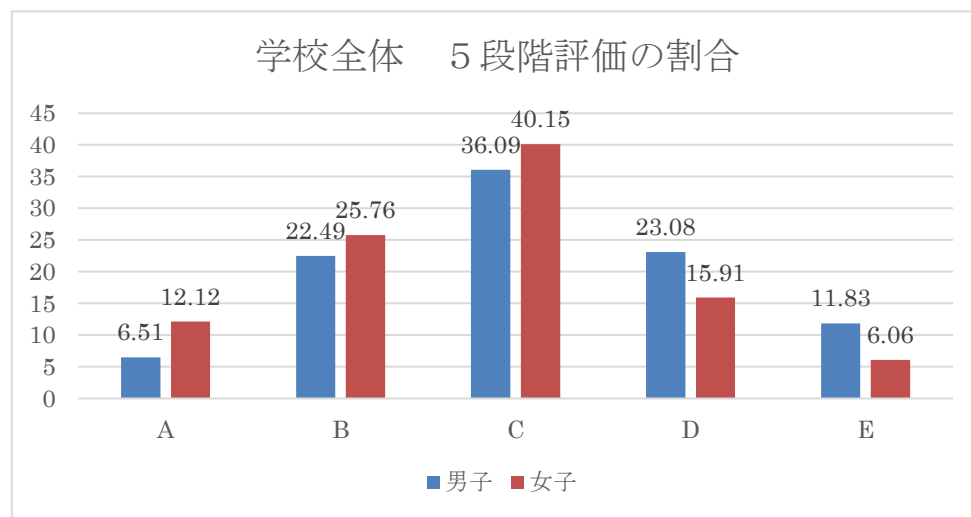
▼特に長座体前屈が低い

→前屈運動（立位体前屈）や開脚ストレッチ（膝を伸ばすことを意識）など、準備運動にストレッチを取り入れる。

▼特に反復横跳びが低い

→手拍子やメトロノーム、またはテンポのある音楽に合わせて動く運動や動きなどの一定リズムを意識した運動を取り入れる。

2 学校全体の傾向



5段階評価（Aが体力に自信がある児童）では、標準のCの児童が男女共に多く占めている。全体的に山なりの傾向があることが分かった。

全国平均値との比較では、学校全体として「握力」が特に低く、次に「20m走シャトルラン」「反復横跳び」が低い。学年間の比較では、男女ともに2年生が高い傾向にある。その他にも、2・3・4・5・6年女子の「上体起こし」「長座体前屈」が全国平均値よりも高い水準である。その他にも2・3年男子の「上体起こし」、4・5年男子の「長座体前屈」が全国平均値よりも高い水準となった。

3 今後の取組

○ 体育授業の改善

体力テストの結果を分析し、特に数値の低い項目を高くする運動を取り入れる。跳ぶ、握る、走るといった課題の見える運動を授業の一部で行う。また、運動を「する」だけでなく、様々な視点（「知る」「見る」「支える」）で関わりをもたせ、興味・関心を高めていく。さらに、45分間の授業の中で個人の運動量を最大限確保する授業を実践する。

○ 授業外の時間の充実

休み時間は外で遊ぶことを推奨し、体を動かす機会を多くする。また、年間を通して「なわの日」を月に1回設定し、学級で記録向上に挑戦させたり、マラソン旬間を設定し、個人でめあてをもたせたりして、体力向上を目指す。さらに、環境設定として、一輪車、竹馬、フープ、なわとびジャンピングボード、ステッピーを自由に使えるようにする。

○ 教員間のチームワーク

子どもの体力向上についての情報を教員間で共有したり、教え合ったりしながら、運動好きな子どもを増やすことにつなげていき、体力向上を目指す。